

人生には様々なイベントごとにお金がかかります。

ライフイベントはひとりひとりの選択によって異なりますが、多くの人が退職後のセカンドライフを迎えます。

ライフイベントとコスト

現役世代

結婚の費用は？

結婚式の総額  
**362万円**  
※1

お子様の教育費は？

幼稚園～大学  
すべて公立・国立  
**784万円**  
私立  
(小学校のみ公立)  
**1,525万円**  
※2

住宅購入費は？

マンション  
**4,521万円**  
戸建て  
**3,494万円**  
※3



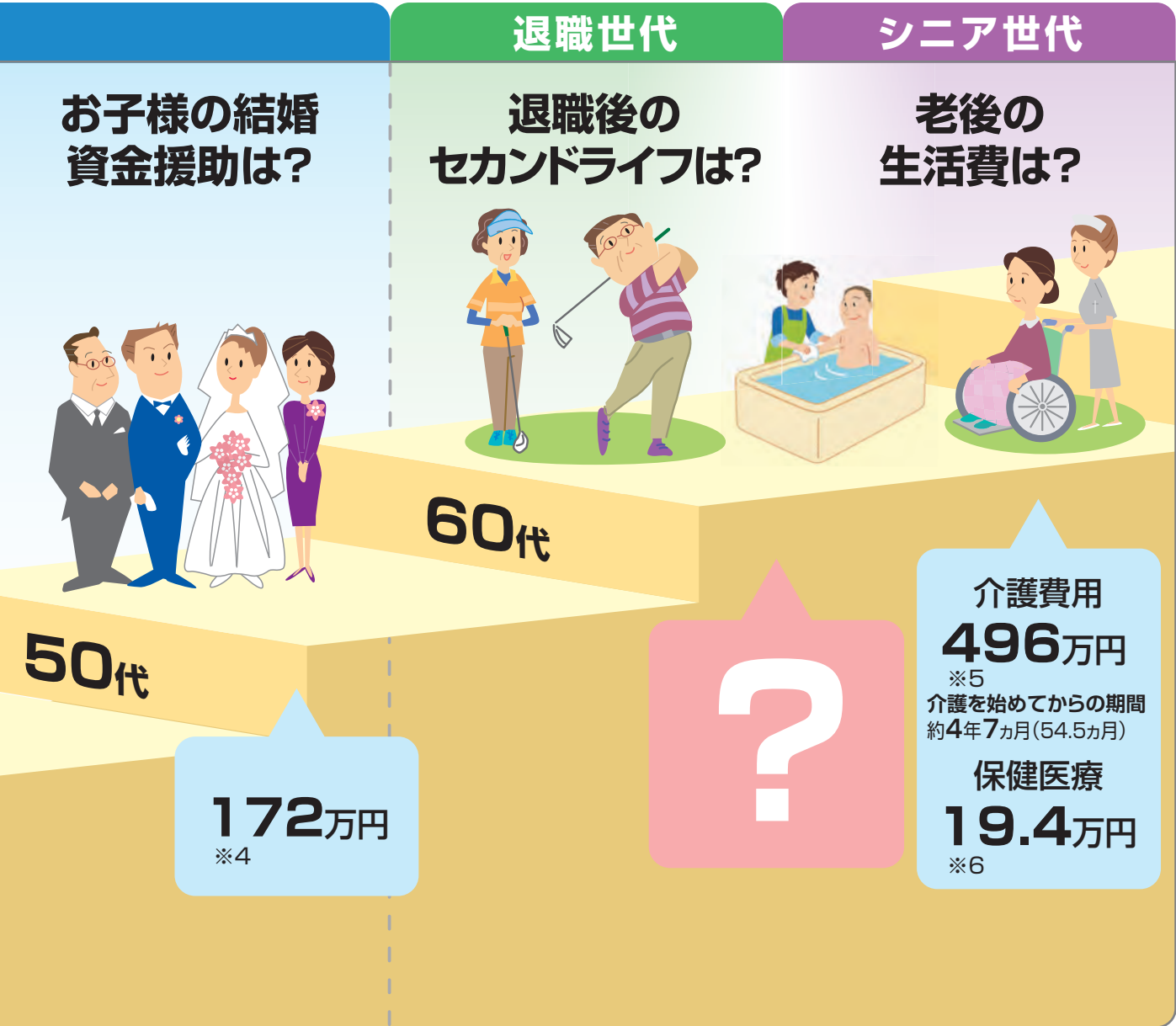
30代

40代

※1 挙式、披露宴・ウエディングパーティ総額の平均。  
 ※2 幼稚園～高校:学習塾などの学校外活動含む。幼稚園は3年間。大学:私立大学は施設設備費を含む。2年目以降の費用は、初年度の入学金以外がそのまま続くとして4年間で試算。  
 ※3 フラット35利用者を対象。戸建ては建売住宅。  
 ※4 挙式、披露宴・ウエディングパーティの費用として親・親族から援助があった人の援助総額の平均。  
 ※5 介護費用:介護を始めてからの期間(介護中の場合は経過期間)は平均約4年7ヵ月(54.5ヵ月)。月額7.8万円×介護期間54.5ヵ月+一時費用69.2万円  
 ※6 年間/夫婦ふたり(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦一組の無職世帯)  
 (出所)「ゼクシィ 結婚トレンド調査2020 調べ」、文部科学省「平成30年度子供の学習費調査」(<https://www.mext.go.jp/>)等、独立行政法人 住宅金融支援機構「2019年度フラット生命保険文化センター「平成30年度 生命保険に関する全国実態調査」、総務省統計局「家計調査結果(2020年平均)」(<https://www.stat.go.jp/>)、各種データを基に野村注: 図表の数字は、四捨五入している場合があります。



これからの人生いくらくらい  
お金がかかるんだろう。



生活費は含まず。

35利用者調査、  
アセットマネジメント作成

人生の3大支出といわれる子供の教育費・住宅購入費・老後の生活費は、ライフイベントの中でも特に大きな支出となります。

教育費

教育にかかる費用は決して少なくありません。

幼稚園から高校までにかかる費用

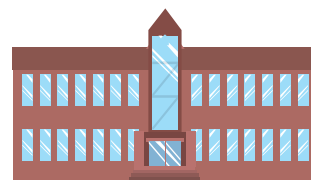
	公立	私立
幼稚園(3~5歳)	65万円	158万円
小学校	193万円	959万円
中学校	146万円	422万円
高校	137万円	290万円
合計	541万円	1,830万円

金額は、各学年の平均額の単純合計



大学にかかる費用

国立	私立文系	私立理系	私立短大
243万円	401万円	543万円	199万円



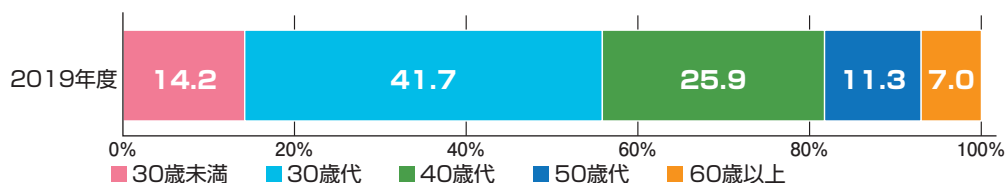
私立大学、短大は施設設備費を含む。2年目以降の費用は、初年度の入学料以外がそのまま続くとして4年間、短大が2年間で試算。生活費は含まず。  
 (出所) 文部科学省「平成30年度子供の学習費調査」(https://www.mext.go.jp/)等を基に野村アセットマネジメント作成  
 注：図表の数字は、四捨五入している場合があります。

住宅購入費

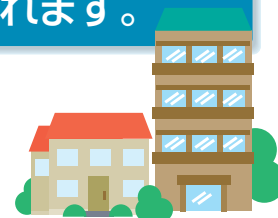
住宅の購入は人生で最も高価な買い物とも言われます。

頭金はどのくらい用意するのか、いくら借りて何年で返済するかなど、しっかりとした資金計画が必要です。

住宅を購入している人たちの年代別構成



注：四捨五入により、各内訳の合計が100%とならない場合があります。



平均年齢  
40.2歳

実際の住宅購入価格と自己資金額(頭金)

		全国平均	首都圏平均
購入価格	マンション	4,521万円	5,033万円
	戸建て	3,494万円	3,915万円
自己資金額	マンション	736万円	805万円
	戸建て	282万円	325万円

自己資金  
282万円  
}  
805万円

フラット35利用者を対象。戸建ては建売住宅。  
 (出所) 独立行政法人 住宅金融支援機構「2019年度フラット35利用者調査」を基に野村アセットマネジメント作成  
 注：図表の数字は、四捨五入している場合があります。

ゆとりあるセカンドライフには月額約35万円必要です。

退職後にゆとりある生活を送るためには、**年金だけでは不足**してしまうようです。



※1 夫婦ふたり  
(出所) 生命保険文化センター「令和元年度 生活保障に関する調査」

※2 夫婦2人分の老齢基礎年金を含む標準的な年金額。  
(出所) 厚生労働省「令和3年度の年金額」(<https://www.mhlw.go.jp/>)

ゆとりある生活にかかる予算例

<p><b>国内旅行</b> 平均<b>7.5万円</b></p> <p><b>海外旅行</b> 平均<b>48.3万円</b></p> <p>1回あたり/夫婦ふたり (出所) 国土交通省観光庁「旅行・観光消費動向調査(2019年)」 (<a href="https://www.mlit.go.jp/kankocho/">https://www.mlit.go.jp/kankocho/</a>)を基に野村アセットマネジメントにて算出</p>	<p><b>住宅リフォーム(バリアフリー対応)</b> 平均<b>94万円</b></p> <p>1件あたり(受注高÷受注件数) 主たる工事目的:高齢者・身体障害者対応 (出所) 国土交通省「建築物リフォーム・リニューアル調査(2019年度)」(<a href="https://www.mlit.go.jp/">https://www.mlit.go.jp/</a>)を基に野村アセットマネジメントにて算出</p>	<p><b>教養娯楽</b> 平均<b>24.2万円</b></p> <p>年間/夫婦ふたり (夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦一組の無職世帯) (出所) 総務省統計局「家計調査結果(2020年平均)」 (<a href="https://www.stat.go.jp/">https://www.stat.go.jp/</a>)を基に野村アセットマネジメントにて算出</p>
--	--	--

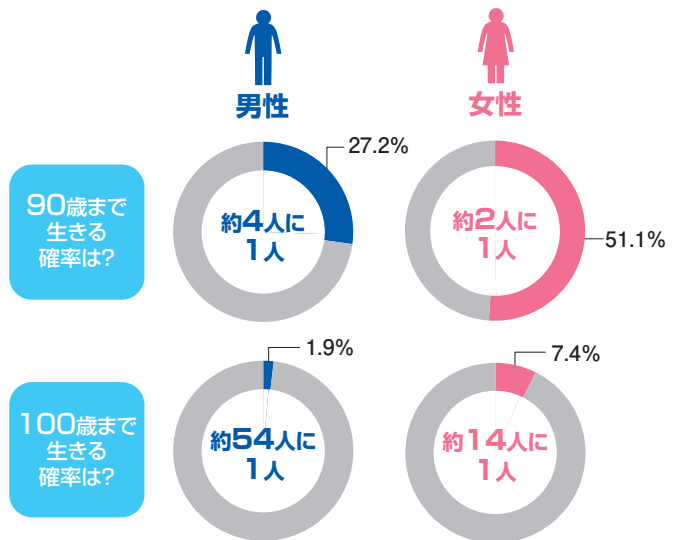
今や人生100年時代といわれています。

定年退職後の自由時間は現役時代の労働時間とほぼ同じくらいなので、セカンドライフといわれます。セカンドライフを有意義にするためにも、経済的基盤を充実しておきたいものです。

年齢別平均余命<sup>※</sup>一覧

現在年齢	男性	女性
	平均余命	平均余命
60歳	24.0年 (84.0歳)	29.2年 (89.2歳)
65歳	19.8年 (84.8歳)	24.6年 (89.6歳)
70歳	16.0年 (86.0歳)	20.2年 (90.2歳)
75歳	12.4年 (87.4歳)	16.0年 (91.0歳)
80歳	9.2年 (89.2歳)	12.0年 (92.0歳)
85歳	6.5年 (91.5歳)	8.5年 (93.5歳)

※平均余命はある年齢の人がその後何年生きられるかという期待値。  
(出所) 厚生労働省「令和元年簡易生命表」(<https://www.mhlw.go.jp/>)を基に野村アセットマネジメント作成  
注: 図表の数字は、四捨五入している場合があります。



セカンドライフは思っている以上に長くて、お金もかかりそうね。





長生きするのはいいけれど、この先どうなるのかしら…

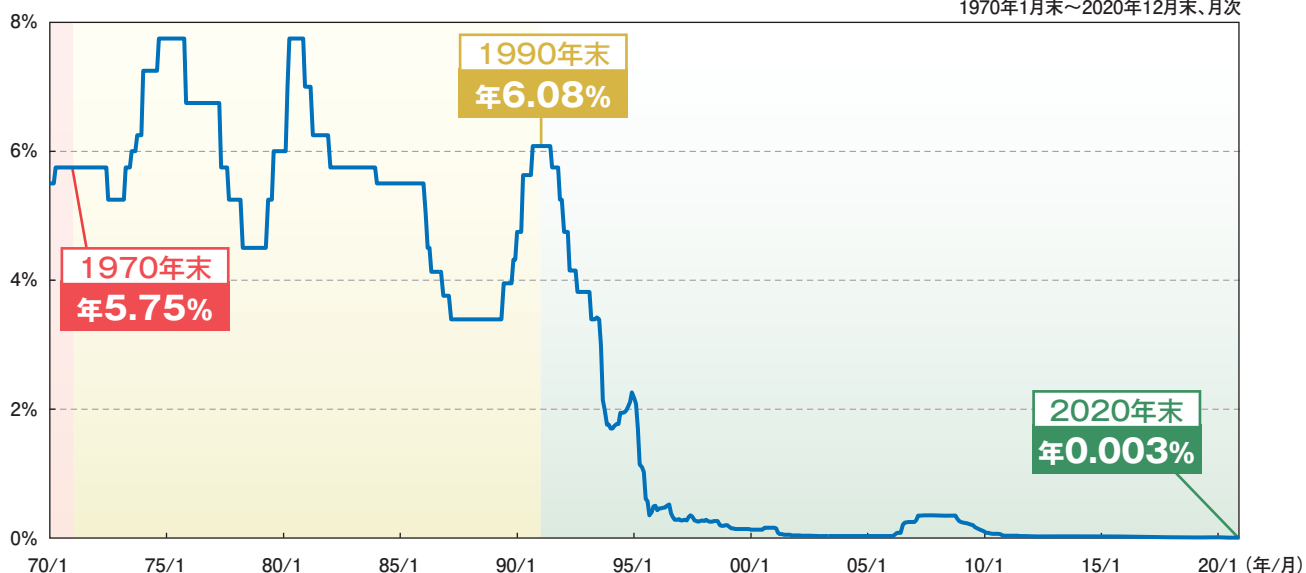
## 私たちを取り巻く環境は変化しています。

金利は1990年代後半以降、低水準で推移しています。経済成長率も、1990年代以降、大きく低下しています。

### 金利の推移

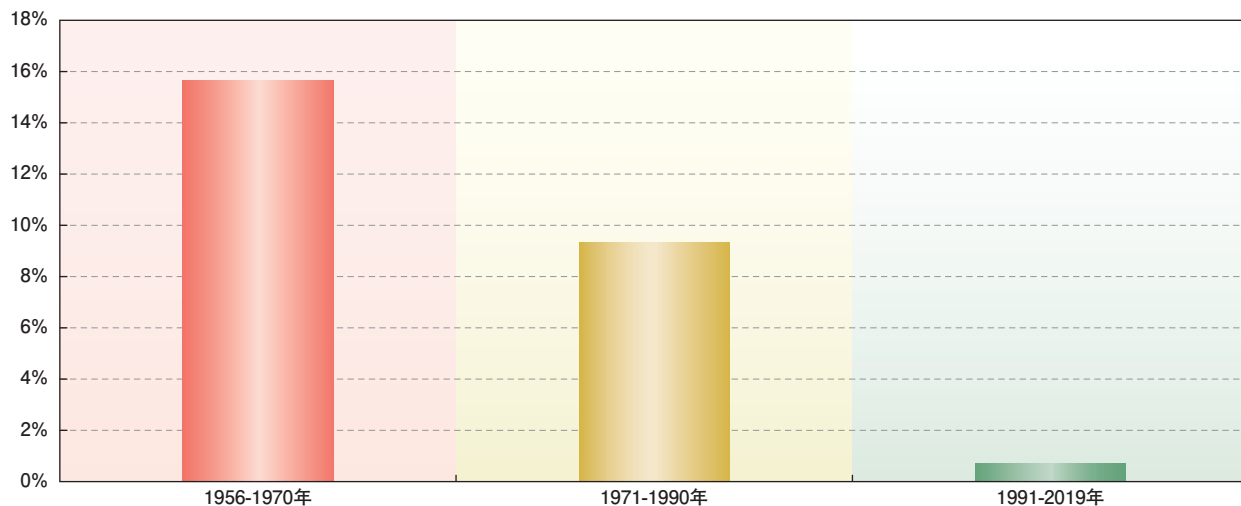
定期預金／1年

1970年1月末～2020年12月末、月次



(出所)野村総合研究所SuperFocus、日本銀行のデータを基に野村アセットマネジメント作成

### 経済成長率の推移(名目GDP成長率の期間別平均値)



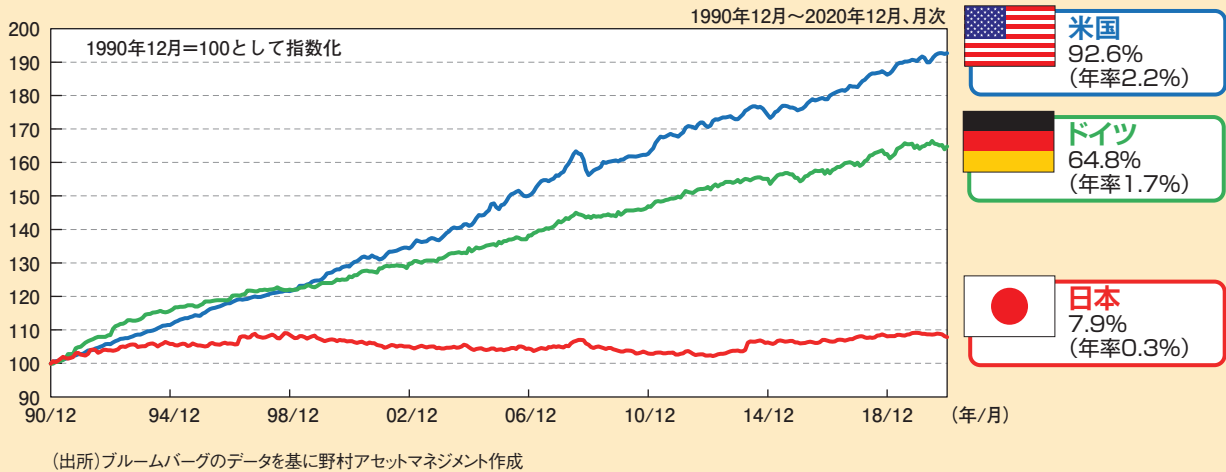
1956年～1994年の名目GDP成長率は、「1998年度国民経済計算(1990年基準・1968SNA)」、1995年～2019年の名目GDP成長率は、「2019年度国民経済計算(2015年基準・2008SNA)」による。

(出所)内閣府 (<https://www.esri.cao.go.jp/>)のデータを基に野村アセットマネジメント作成

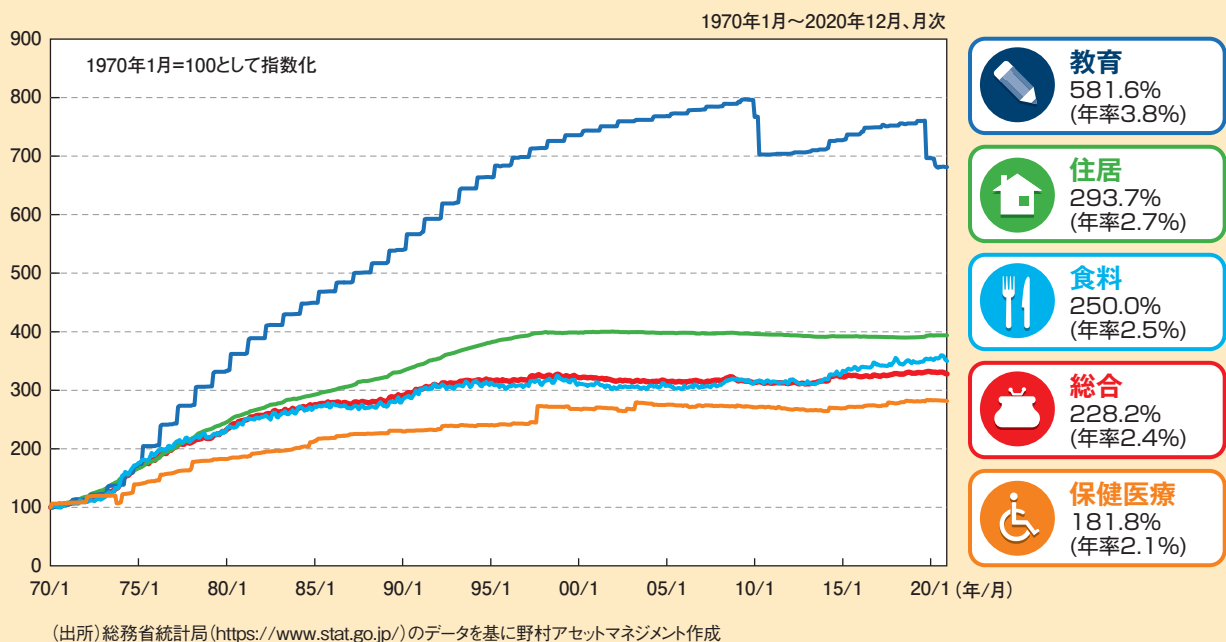
# インフレの世界

日本の物価はこれまで海外主要国に比べて低水準で推移してきました。このような状況のなか、日本銀行が2013年4月にデフレからの脱却に向けて「2%のインフレ目標」を掲げました。将来、2%のインフレが実現したら、さまざまなモノやサービスの価格が上昇することが想定されます。

## 主要国の消費者物価指数の推移



## 日本の消費者物価指数の推移(中分類)



インフレに備えることも  
考えないとなあ…

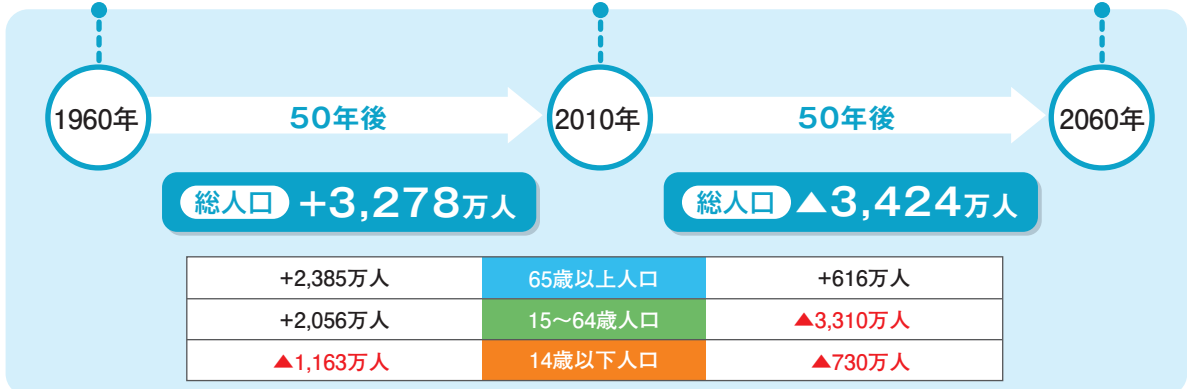
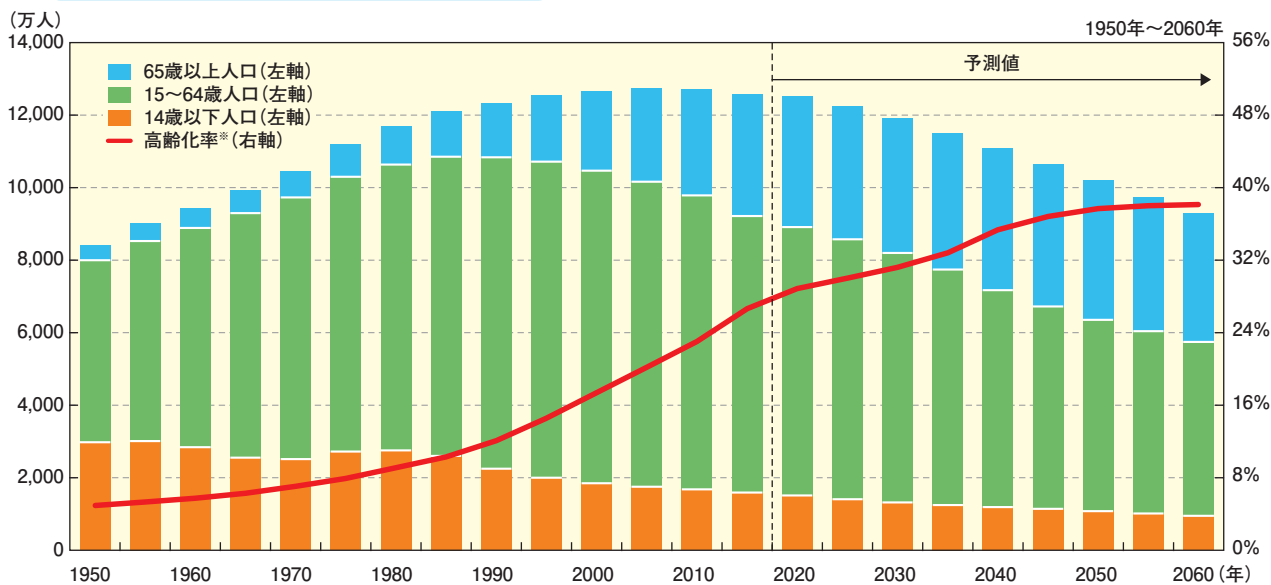




● 少子高齢化は公的年金制度に大きな影響を与えます。

少子高齢化により、引退した世代の人口が増える一方で、現役世代の人口が減っています。この状況が続けば、公的年金制度に大きな影響を与えます。

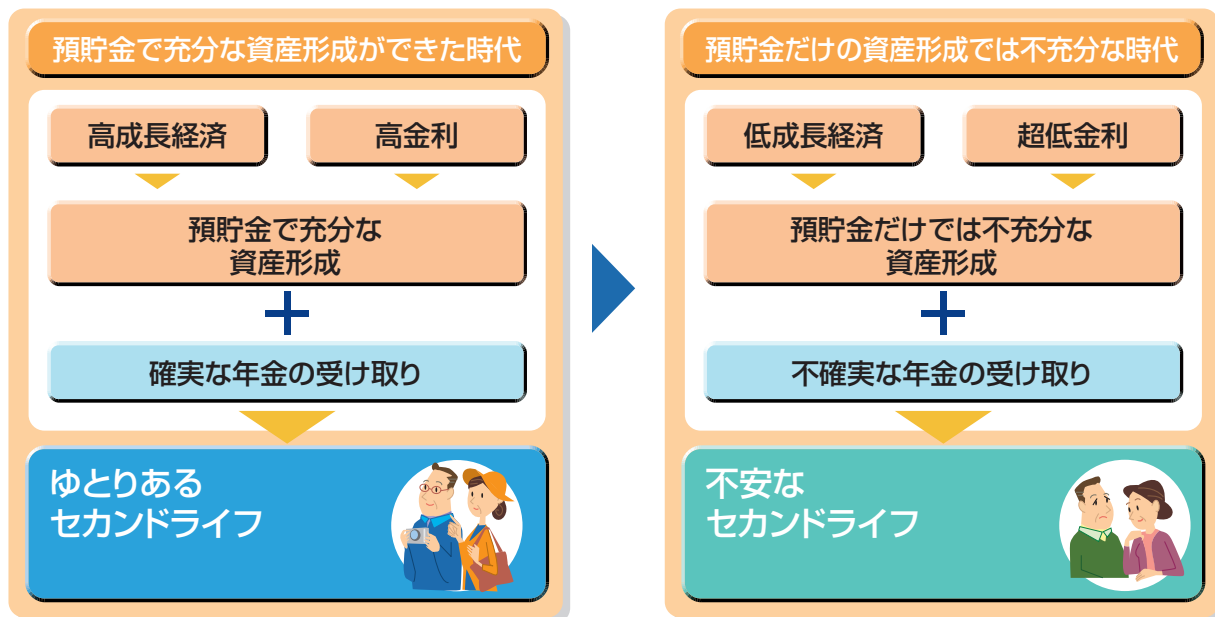
日本の人口構成と高齢化の推移



※高齢化率：65歳以上人口÷総人口  
 2015年まで：総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳人口を除く)  
 2020年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位・死亡中位推計)  
 (出所)総務省「令和2年版情報通信白書」(https://www.soumu.go.jp/)より野村アセットマネジメント作成

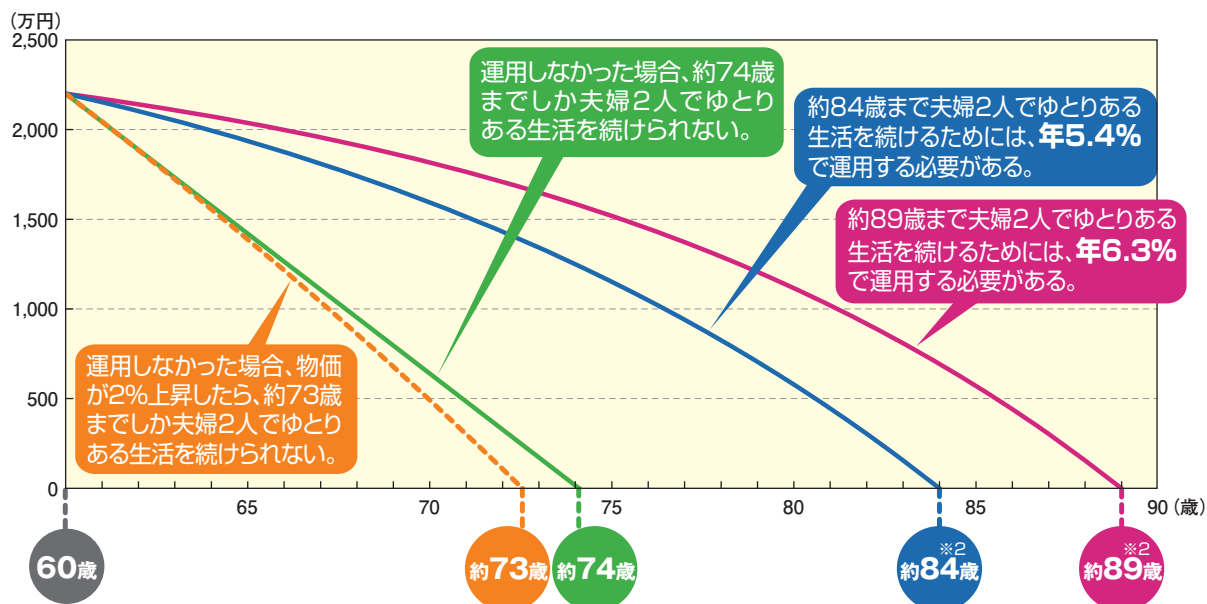


## 年金や預貯金だけに頼った資産形成では、 ゆとりあるセカンドライフが困難になってしまいました。



## 資産を有利に運用できるかどうかで、 ゆとりあるセカンドライフを過ごす期間に差が出ます。

退職時の退職金を2,200万円<sup>※1</sup>とし、ゆとりある生活への毎月の不足額、約13万円(年間156万円)を取り崩していくと、運用しなかった場合は14年ほどでゆとりある生活は終わってしまいます。さらに、物価が上昇した場合、お金の実質的価値が目減りするため、ゆとりある生活を送ることができる期間は13年ほどに短くなってしまいます。



※1 厚生労働省「令和元年賃金事情等総合調査—退職金、年金及び定年制事情調査」(<https://www.mhlw.go.jp/>)より、調査産業計・満勤勤続・大学卒・男性 平均退職金額 2,289万円(平成30年度)を参考とし、2,200万円と仮定。

※2 4ページ「年齢別平均余命一覧」ご参照

上記データを基に毎年、年末に156万円ずつ取り崩していったと仮定し、野村アセットマネジメントが算出したシミュレーション結果であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。算出過程で取引コスト等は考慮していません。

(作成)野村アセットマネジメント

ゆとりあるセカンドライフのためには、  
資産を運用することも  
考える必要がありそうですね。

